

心のキャンバス



世界観とは、心のキャンバスのことだと思う。人間はそれぞれ心にキャンバスを持っていて、そこに描かれた絵がその人の世界観であると考えると、この難しい言葉がちよっとだけわかりやすくなるように思う。ある人のそれには極彩色の油絵が描かれているし、ある人のそれには淡い水彩画が描かれているし、ある人のそれには墨痕鮮やかな水墨画が描かれているかもしれない。

描かれている対象も、ある人のそれには人間が描かれているし、ある人のそれには動物が描かれているし、ある人のそれには静物が描かれているかもしれない。また、キャンバス自体も身長を超える巨大なキャンバスを使って絵を描く人もいるし、普通のサイズを好む人もいるだろうし、小さなそれでない絵を描けない人もいるかもしれない。

映画というメディアは、絵画というメディアの発展形だと考えると、こういう世界観がより如実に画面に表れるメディアだと思ふ。それを作った映画監督の世界観。心のキャンバスに描かれた絵が画面からにじみ出るのである。例えば、「エイリアン」や「ブレードランナー」や「ブラック・レイン」を作ったリドリー・スコット監督は、独特な世界観を持った映画監督であると思う。リドリー・スコットの心のキャンバスはいつも光が明滅していて、雨が降っている。つまり、リドリー・スコットはそういう絵が好きなのである。

わたしは映画監督でもないし、絵描きでもないが、舞台の演出という仕事をしているから、わたしの心のキャンバスに描かれた絵は、ハッキリとわたしが作る舞台空間に反映しているはずだ。わたしの心のキャンバスに描かれた絵は…。

高橋いさを

〈劇団シヨーマ主宰 劇作・演出家〉